

CIA は何も知らぬ米市民に、秘密の薬物 LSD の実験をしていた

<https://www.rt.com/news/555089-cia-lsd-experiments-mkultra/>

RT : Anastasia Safronova, RT editor

May 24, 2022

MKウルトラ・プログラムが、数十年間、マインド・コントロールのために、それを知らせることなく被験者に用いられていた。



第二次大戦後、人の心をコントロールすることが、できるかどうかということが、情報部の仕事の最も重要な一つになった。無限にあるスパイのゲームの中でも、質問によって誰かに完全な真実を言わせることができるか、または、ある被験者の人格を消し去って、コントロールされた別の人格を強制できるかどうか、秘密情報員にとってすこぶる魅力のあるものとなった。

1979年、元米国務省高官の John Marks が、*The Search for the “Manchurian Candidate”*（「陰なき狙撃者」の探究）という本を出版した。これは、CIA のマインド・コントロール実験を中心にして、「情報の自由法」の下で公表された、スパイ文書に基づくものだった。Manchurian Candidate（満州の候補者——映画では「陰なき狙撃者」）はリチャード・コンドンの小説の題によるもので、1959年に出版され、あるアメリカの兵士が洗脳され、後に共産主義者によって、暗殺者に仕立てられる物語である。その当時、アメリカのライバルがそのようなテクニックを使うかもしれないという心配が、仮構のファンタジーというだ

けでなく、極めて現実的な懸念でもあった。https://www.cia.gov/library/abbottabad-compound/12/129E144131F2E093FB1E441C737ACF92_SearchForTheManchurianCandidate.rtf.pdf

ジョン・マークスはこれを説明して、こう言っている：——「1947年、国家安全保障法は、CIAだけでなく、国家安全保障委員会をも創り出した——要するに、冷戦のための指令構造であり、ウィリアム・ドノヴァンや、アレン・ダレスのような、戦略のリーダーが、この法案のために熱烈にロビー活動をして、この新しい指令構造内部の高官たちが、彼らの恐怖や壮大な考えを動かすようになった。当時あった脅威に反応して、彼らは、自分たちが敵と考えるあらゆる者に対して、無慈悲で好戦的な姿勢を取った——特にソ連に対して。彼らは自らの使命として共産主義と戦った。そして共産主義を世界のどこへでも導く可能性のある、すべてと戦った。

防衛的姿勢がやがて2次的なものとなった

1975年、アイダホ州選出、フランク・チャーチ上院議員を議長とする、米上院選定委員会が、過去に犯された情報局による、濫用の可能性のあるものを調査し始めた。それはいわゆる「情報局の年」の一部で、一連の調査が、「不法、不適切、あるいは非倫理的な活動」に対して行われた——チャーチ委員会の定めた決議案によれば。

<https://www.senate.gov/about/powers-procedures/investigations/church-committee.htm>

現実には、アメリカの民衆が、秘密警察のやり方を疑問とする、当然の理由がいくつもあった。ウォーターゲート・スキャンダルの後、CIAが、この犯罪に直接、役割を果たしていたことが暴露された。CIAの活動をNYタイムズで取り上げた、ジャーナリスト Seymour Hershは、他の情報局の活動で、米市民をターゲットにしているものがあると言った。しかしCIAだけが、2007年の問題について記録文書を公表した。

<https://www.cia.gov/readingroom/document/0001451843>

そこでチャーチ委員会は、ひどく忙しくなった。このメンバーは、126件の完全な委員会と、40件のサブ委員会公聴会を行い、約800人の証人をインタビューした。11万の記録文書を調査した後、この委員会は1976年4月に、その最終報告を発表した。それは、「外国のリーダーを狙ったといわれる暗殺計画」という文書もまた公表した。これは、Patrice LumumbaやFidel Castroのような、数人のトップ人物を殺そうとする、情報局の計画を、詳しく説明している。

<https://www.intelligence.senate.gov/resources/intelligence-related-commissions>

<https://www.intelligence.senate.gov/sites/default/files/94465.pdf>

報告の主体は、情報局員たちによる化学・生物学的薬物の使用について書かれた、膨大な章からなっている。「アメリカに敵対的な諸国家が、アメリカ人やその同盟国に、化学的・生物学的薬物を使うだろうという怖れが、防衛的なプログラムの開発を促したもので、それはアメリカの情報局員が、化学・生物学的な薬物を発見できるように、工夫されている」と、報告は述べており、防衛のための武器は、攻撃の武器に容易に変わるだろう、と指摘している。

http://www.aarclibrary.org/publib/church/reports/book1/html/ChurchB1_0197a.htm

報告はさらに、このプログラムは非常に敏感なものだから、「ほとんどの者が、情報部内の者でも」その存在を知らず、「執行機関でも議会であっても、かつて情報を受けた証拠がない」と言っている。その結果、何十人という人々が、何らかの障害で苦しみ、少なくともその2人は、この実験のために死んだ。

1つの恐ろしい例は、アメリカのテニス・プレイヤーHarold Blauer の場合である。

[https://web.archive.org/web/20160308171930/http://articles.latimes.com/1987-05-](https://web.archive.org/web/20160308171930/http://articles.latimes.com/1987-05-06/news/mn-2486_1_chemical-warfare-agents)

[06/news/mn-2486_1_chemical-warfare-agents](https://web.archive.org/web/20160308171930/http://articles.latimes.com/1987-05-06/news/mn-2486_1_chemical-warfare-agents) 1952年、彼は志願してニューヨークの州立「精神病研究所」に入った。その理由は、彼がうつ病で苦しんでおり、それが離婚によってさらに悪くなったからだった。この施設は、軍隊と密かな契約をしており、化学兵器の薬物効力を研究していた。本人が何も知らない、ある実験の一部として、ブラウアーは、メスカリンと呼ばれるサイケデリック物質の、一連の派生物を与えられ、そして死んだ。1987年に、あるアメリカの法廷が、政府は、この人物の死の役割を果たしたものを、隠ぺいしたと裁定した。裁判官は、政府責任者に対し、ブラウアーの家族に70万ドルを払うよう命じた。

知らされない被験者たち

1940年代後半以来、CIAは、化学・生物学的薬物を含む、いくつかのプロジェクトを進めていた。1947年から1953年まで、CHATTERと呼ばれるあるプロジェクトが、「真理ドラッグ」の研究を行った。これはチャーチ委員会の報告によれば、「ソビエトによって達成された驚くべき結果の報告」への反応であった。多くの動物や人間が、「アナバシス・アフィラ」と呼ばれる植物——アルカロイド・スコポラミンとメスカリンを含む薬物——のテストを受けた。

1950年には、BLUEBIRDと名付けられたプロジェクトが承認された。その目的は、マインド・コントロールの方法として、職員が「情報を引き出す不法行為」によって、催眠や薬品を含む「不法な質問テクニック」を研究することを防ぐための調査であった。このプロジェクトがいつ終わったのか、確かな情報はない。チャーチ委員会の報告によれば、CIA

は、ARTICHOKE（植物？）は 1956 年に廃止されたと主張している。しかし、彼らが研究していた「特別の質問」は、その後数年は用いられた証拠がある。

またこの他に、MKNAOMI というものがあり、これは生物戦争の薬剤、その保存法、拡散のための方法などを研究するものだった。それはリチャード・ニクソンが、1969 年、アメリカの犯罪的生物兵器をやめさせた後、廃止された。

MK ウルトラ

CIA の主たるマインド・コントロール研究プログラムとして、発見されたときに本当にショックだったのは、MKULTRA である。これは Dr. シドニー・ゴットリーブに指導された。それは 1953 年から始まり、10 年後には中止されたが、このプログラムには、放射性物質、エレクトロショック、心理学・精神医学的な道具、ハラスメント用の材料、それに軍事用考案物といったものによって、人間の振舞いをコントロールする物が含まれていた。このプログラムには MKDELTA という特別の部署があり、外国で行われているテストを監視していた。

https://www.nytimes.com/packages/pdf/national/13inmate_ProjectMKULTRA.pdf

人々は今では、たいてい、MK ウルトラのことを知っている。それは LSD に関するもので、1938 年、スイスのバーゼルのサンドス研究所で、スイスの化学者アルベルト・ホフマンによって創り出された、サイケデリック・ドラッグである。1943 年 4 月 19 日、ホフマンは誤って彼自身が LSD に触れ、その効力がどれほど強力でありうるかを発見した。（この日は現在、Bicycle day として知られている。それはこの日、ホフマンが、通常“acid”と呼ばれる LSD の最初の「旅」を経験しながら、自転車に乗っていたからである。）サンドス研究所は、4 年後、Delysid という名前で、このドラッグを販売し始め、1948 年にアメリカに移った。

CIA は、LSD の効力を知り、あまりにもこれを頼りにしたので、1953 年には、10 キログラムの LSD を購入、これは約 1 億服で、24 万ドル相当の実験用 LSD だった。

CIA は研究財団のふりをしながら、大学、病院、その他の施設と取引し、必要な材料や物質を手に入れさせた。このテストは、あらかじめ知識を与え、または与えないで、人間の被験者に対して行われた。この研究に参加することを志願した人々さえ、背後の本当の目的を知らなかった。CIA はこの秘密の側面が必要だと考え、作戦行動と同じように、ターゲットの被験者が確実に、「知らない」ようにした。

LSD を含むいくつかのテストが、軍隊で実施された。それはまた外国のスパイと言われる者たちの訊問中にも、外国で使用された。

この幻覚発生剤は、囚人に対しても使われ、時にはドラッグ中毒者にも使われた。「レキシントン・リハビリセンター」に志願した何人かの刑務所仲間は、彼らが常用しているドラッグの代わりに、幻覚発生剤を与えられた。

アメリカの組織犯罪のボスである James 'Whitey' Bulgar は、アトランタで入獄中、1957 年に、MK ウルトラに参加した。2017 年に、彼は OZY メディアの記事に、彼の経験を説明している。バルガーによれば、自分が CIA の実験に参加していることに、初めて気づいたのは、数年後、彼が「〈陰なき狙撃者〉の探索」を読んだときだった。

<https://web.archive.org/web/20030211052410/http://www.frankolsonproject.org/Statements/FamilyStatement2002.html>

バルガーは、何人かの他の刑務所仲間と一緒に、この実験にリクルートされた。彼の記事によると、それは、精神分裂症を治療するための医療プロジェクトだと、説明されたという。「我々が参加する見返りに、月に一度、3 日間、楽しい時間を与えられた」とバルガーは書いている。「週に一度、我々は、この刑務所病院の地下室の、安全な部屋に閉じ込められたが、そこには精神病患者が入っていた。」すべての被験者が、大量の LSD を与えられ、その反応をテストされた。

ホワイティ・バルガーは次のように説明している：——「8 人の受刑囚が完全なパニックと精神疾患の状態にあった。完全な食欲喪失。幻覚。部屋が形を変えるのだ。何時間も続く精神異常と暴力的感情。我々は恐ろしい、生きた悪夢（夢魔）がずっと続き、壁から血が出てくる経験さえした。人間どもが私の目の前で骸骨に変わった。私はカメラが犬の頭に変るのを見た。私は自分が異常者になりそうに感じた。」彼は、この実験によって、長期間続く睡眠異常と、悪夢に苦しむことになったと言っている。

ドクター・オルソンの死

1953 年 11 月、CIA 職員のグループ（シドニー・ゴットリーブを含む）が、Camp Detrick と呼ばれる、アメリカの生物研究センターの科学者たちと共に、会議のために、メリーランドの小屋に集まった。このグループには、空中生物学の専門家、フランク・オルソン博士が加わっていた。ある時点で CIA のメンバーが提案し、それと知らない被験者たちに、ある実験を試みることに決定した。そこで、ゴットリーブの代理者 Robert Lashbrook が、コワントロー・リキュールの瓶に LSD を加え、これが食事の後で出された。オルソンはそれを賞味した。

オルソンが家に帰ったとき、家族たちは、彼が沈み込んでいるのに気づいた。その2日後に、オルソンは彼の主任 Vincent Ruwet に、体調が悪いこと、自分が経験したことを訴えた。ルーウェットは、ラッシュブルックに連絡し、彼らはオルソンをニューヨークに連れて行き、CIA に近く、LSD の経験をもつ医者に見せた。ニューヨークでは、オルソンはあまりにも気分が悪かったので、家に帰って家族とともに、感謝祭を過ごすことさえ拒否した。後にラッシュブルックは、彼らが共にした夕食会で、この人は「ほとんど実験前のドクター・オルソンのように見えた」と主張した。ラッシュブルックの証言によると、午前2:30 に彼は、大きな「ガラスの壊れる音」を聞いて目が覚め、オルソンが10階の彼らの部屋の窓から、落ちて死ぬのを見たのだという。しかしオルソンの家族は、それが自殺とは信じられず、この空中生物学者は殺されたのだと主張した。

<https://web.archive.org/web/20030211052410/http://www.frankolsonproject.org/Statements/FamilyStatement2002.html>

こういうことがあったにもかかわらず、何も知らない人をテストする実験は続いた。このCIA職員は、刑務所の被験者に面会し、彼を「安全な家」に連れ出し、食べ物か飲み物に入れたドラッグを与え——反応を待つことができた。時には被験者は、その後、何日間も病気の状態が続いた。

このプロジェクトは1963年に廃止された。10年後に、ゴットリーブは、MKウルトラに関するほとんどの記録文書を廃棄したので、その実際の規模については、もう知ることができない。

MKウルトラは冷戦時代の幽霊に過ぎないとは言っても、新しい兵器の探究と、それに対抗する方法の探究は、終わったわけではなく、これからも終わることはないだろう——と、かつてCLA職員で警鐘家に転向した John Kiriakou は言っている。一方で、世界中の国々が、「何十、何百ドルという代価」をそれに払っている。

キリアクーは、一人の人間に対して、何が起きているのか、その人物の完全な了解なしに——またその実験に参加する合意なしに——実験を行うことは、倫理に反する許せない行為だと言う。——「こうしたことは秘密であってはならない。もしそれが秘密なら、それを行ってはならない」と、彼はRTに話した。「倫理的にも、法的にも、一人の人間に対して、合意なしに実験を行ってはならない。」

「私が大学生だったころ、1か月の部屋代を払うこともできなかった。私はある薬品会社の広告を見て、こうした新しいドラッグの試験を、若く健康な人々に求めているのを知った。もし週末に、このドラッグを受けることを合意するなら、500ドル払うと彼らは言い、

それは、あなたの血液を抜き、その医療行為の吸収率を測定するのだと言った。そこで私はそれをやった。私は眠くなり、500ドルを貰って家に帰った。私は自分が何をしているのかわかっていた。私は合意して、彼らに身体実験をやらせているのだ。それは不快で、感覚が鈍くなったようだった。しかし目はちゃんと明いていた。

化学的・生物学的な研究の話をしているとき、それが平和な目的のためになっている間は、気持ちのいいものだ、と彼は言う——「それは結局、多くのよいことをもたらす。特に各国が互いに協力しているときはそうだ。」そして、キリアクーはこう結論した：——「しかし戦時には、そして特に公衆が、このようなことを知らされていないときには、恐ろしいことが起こりうる。なぜなら我々はただ、自分の政府を信頼し、それらを武器として犯罪的に用いないよう、願うよりほかないからだ。」

【訳者 Greatchain 注】

「モッキングバード作戦」と呼ばれ、CIA（米中央情報局）が、わが国のような、アメリカの同盟国全般の主流メディアを、操作し支配していることは、今では、たいいていの人
が知るようになった。アメリカはそれだけでも、CIAを通じて、ロシア・中国などを除く全世界に、巨大な影響力を及ぼしているが、更に大きな、**犯罪的で、非人間的な方法**によって、世界を支配しようとしていることが、このエッセーによってわかってきた。このCIAが、アメリカの官庁の中心にあるとするなら、アメリカという国は、「悪魔的」「サタンの」と言われるように、ほとんど病的とも言える、「犯罪立国」の様相を呈してきたと言ってもよいだろう。

少なくとも、それがますます顕著になってきた。私はアメリカの本質がそうだと、未来永劫それが続くとも言っていない。この状態を脱したとき、アメリカは、知的にも倫理道徳的にも、世界をリードする国に生まれ変わると期待している。今、世界中の人々が使っている「覚醒」という言葉が、現実のものとなるときが、遠からずやってくるだろう。今は馬鹿々々しくも、真逆のことが、当然のごとくに起こっている。

我々進化した者たちは、もはや、CIAのように、常に敵を恐れ、敵に殺される前に、毒物を使ってどうやって上手に殺すか、などという馬鹿げたことを考えて、生きてはいない。戦国時代のように堂々と戦って殺すならまだよい。密かに毒物を使って、人を内部から苦しめ、狂わせ、弱らせていく——これがCIAのやり方である。そして現在、我々の間でも、ワクチンを使ってそれが行われている。